

令和5年度

病虫害発生予察特殊報 第3号

令和5年11月30日

茨城県病虫害防除所

TEL : 0299-45-8200

モモヒメヨコバイの発生について

害 虫 名 : モモヒメヨコバイ
学 名 : *Singapora shinshana* (Matsumura)
発 生 作 物 : ウメ

1. 発生確認の経緯および県外での発生状況

- (1) 令和5年9月に県内のウメ園において、葉のカスリ症状が認められ(写真1、2)、症状が見られた葉にはヨコバイ類の寄生が確認された(写真3)。
- (2) ウメ葉の被害および採集した本虫の外観が他都府県において近年発生が認められているモモヒメヨコバイと類似していたことから、本成虫について横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、モモヒメヨコバイであることが判明した。
- (3) 本種は沖縄県での分布が確認されていたが、令和元年に和歌山県で確認されて以降、計23都府県で発生が確認されている。本種は、国内ではウメ、モモ、スモモ、アンズ、オウトウ、ハナウメ、ハナモモ等のバラ科植物を加害することが報告されている。

2. 形態の特徴

- (1) 成虫の体長は3.0~3.5mmで体色は黄緑色、複眼は黒色で、頭頂部に特徴的な黒点(写真4)がある。若齢幼虫の体色は薄い黄色で、終齢幼虫になるにつれて成虫と同じ黄緑色になる。

3. 被害の特徴

- (1) 成虫および幼虫が葉に寄生し、吸汁加害することで葉色が徐々に薄くなる。葉全体が吸汁されるとカスリ症状が生じる。なお、被害が見られる葉の裏側には幼虫の脱皮殻が付着していることが多い。
- (2) 激しく吸汁加害された葉は早期落葉することがある。

4. 防除対策

- (1) 本種の発生・被害の早期発見に努め、確認された場合は速やかに寄生葉ごと除去し、圃場外へ持ち出して適切に処分する。
- (2) ウメまたは小粒核果類ではモモヒメヨコバイに登録のある薬剤を使用する(表1、2)。

表1 ウメのモモヒメヨコバイに登録のある薬剤

(令和5年11月8日現在)

薬剤名	使用方法	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	IRACコード ¹⁾
マブリック水和剤20	散布	4000倍	収穫21日前まで	2回以内	フルバリネート	2回以内	3A
アグロスリン水和剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	シベルマトリン	3回以内	3A
ロディー水和剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	フェンプロパトリン	8回以内(但し、噴射は5回以内、散布は3回以内)	3A

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

表2 小粒核果類のモモヒメヨコバイに登録のある薬剤

(令和5年11月8日現在)

薬剤名	使用方法	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	IRACコード ¹⁾
テツパン液剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内	シクラニプロール	2回以内	28

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

(注) 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準・注意事項等を必ず確認のうえ使用する。



写真1 ウメの被害樹



写真2 ウメの葉のカスリ症状



写真3 ウメの葉に寄生した成幼虫および脱皮殻



写真4 モモヒメヨコバイの成虫 (頭頂部の黒点)